第115回
日本解剖学会総会・全国学術集会

The 115th Annual Meeting of the Japanese Association of Anatomists

特別講演・市民公開講座

演題：

「緑色蛍光たんぱく質GFPは天の恵みか?」

2008年ノーベル化学賞受賞

下村　脩　ボストン大学名誉教授、名古屋大学特別招聘教授、ウッズホール海洋生物学研究所特別上席研究員

日時：平成22年3月29日(月) 16:30～18:00

会場：岩手県民会館 2階大ホール、中ホール（サテライト）

※一般の方も聴講可能です。（詳しくはHPをご参照下さい）

URL　http://www.aeplan.co.jp/jaa115/index.html

2010年3月28日（日） シンポジウム

午　前	解剖学教育に求められているもの
	種々の細胞組織機能分子形態学的アプローチの新展開
	頭頸部領域の臨床解剖学
	免疫病の微小環境を解剖する
	聴覚脳と発声機構の進化
午　後	みちのくシンポジウムⅠ－先端イメージング技術で観る生命の構造と機能の未知領域－［解剖学会・生理学会連携シンポジウム］
	骨髄幹細胞　－再生医療や難病治療への新しい展開－
	脊椎動物における組織・細胞の構造進化 ～比較形態学を基盤とした構造多様性の整理と意義付け～
	細胞の死顔
	株式会社パーキンエルマージャパンプレゼンツ ○と△による組織構築ダイナミクス：異種細胞間・異種事象間の交流がもたらす三次元現象の理解をめざして
	分子•オルガネラレベルで考える細胞内ソーティングとアロケーション機構
	脈管外通液路の研究変遷とその臨床解剖学
	ホメオスタシス制御中枢における機能・形態・行動解析のupdate

3月29日（月） シンポジウム

午　前	発光・蛍光物質が切開く生命科学のフロンティア
	バイオセンサー研究の新展開 －線毛を中心とした生体のホメオスタシス維持機構とその異常－
	生物の適応放散における歯を中心とする顎顔面の器官形成と分節プラン
	神経回路形成研究のcutting edge
	核内受容体の機能形態学

3月30日（火） シンポジウム

午　前	コメディカル分野の解剖学教員養成
	次代を担う小脳回路研究
	顎顔面発生研究の新規展開：若手研究者の発想とねらい
午　後	光るゼブラフィッシュがひらく新しい解剖学
	消化管運動の形態学的基盤　－機能発現を担う細胞とその発生－
	感覚器研究の最前線－分離組織標本から何を学ぶか－
	幹細胞はどこまで組織構築に迫っているか

会頭：佐藤洋一（岩手医科大学医学部解剖学講座細胞生物学分野教授）

［総会事務局］　**岩手医科大学医学部解剖学講座細胞生物学分野**

〒020-8505　岩手県盛岡市内丸19-1　Tel:019-651-5111(内線3352)　Fax:019-651-5605

E-mail: 115kaibo@iwate-med.ac.jp